

『真宗門徒のお葬式』～真宗の仏事の回復を願って～

<参考文献>

- ◇『寺院における葬儀の基本』大阪教区出版会議
- ◇『真宗ハンドブック』大阪教区出版会議
- ◇『真宗入門 Q&A』大阪教区出版会議
- ◇『亡き人との新たな出会い 葬儀後の仏事』大阪教区出版会議
- ◇『真宗の仏事』東本願寺出版
- ◇月刊「同朋」東本願寺出版
- ◇『広辞苑』岩波書店

2015年4月30日 初版発行（大阪教区出版会議）

2020年6月30日 ブックレット版発行

編集・発行／真宗大谷派大阪教区教化委員会 広報・出版部

発行所／真宗大谷派大阪教務所

大阪市中央区久太郎町 4-1-11

☎ 06-6251-4720

WEB： <http://www.icho.gr.jp/>

私のお寺

真宗門徒のお葬式

真宗の仏事の回復を願って

はじめに

古く日本の社会では、人の死を「冷とうなる」と体感をもって語り、お通夜の事を「夜伽」と呼んで悲しみを縁者と共有し、葬儀を「葬連」と言い、火葬場までの道を「葬連道」と呼んできました。そして、その葬送を故人とつながった人たちによる「お弔い」と総称してきました。

死にゆく人を親族が見取り、死に至っては縁ある人が集まり、夜を通して故人を偲び、故人の事や残された者との関わり合いを語り合いました。そして、お棺と共に葬列を組み火葬場へ向かい、その葬列を見守る人も静かに合掌しました。火葬場に着けば喪主は会葬者にささやかな供養の品を配りました。そして夜を徹して荼毘にふされ、翌朝に収骨が近親者で行われました。

そのお弔いの送葬の中で僧侶は、その場面場面で勤行と法語を行い、会葬者は釈尊の教えである「諸行無常、生死無常*」の教えを確かめ合ってきました。と同時に残された人たちは故人の人生の歴史と残された者との関わり合いに、改めて出遇い直してきました。そこに葬儀が仏事として執り行われてきた意味もあるのでしょう。

しかし残念なことに、そのような先人の光景も、時代の流れと共に随分と様変わりしてきました。

「通夜式」「告別式」というセレモニー化、そして故人と地域社会や縁者との関わり合いをさし置いた葬送が多くなってきています。果たして先人たちの願いや故人に対する情感がどれほど含まれているのでしょうか。

葬儀を近親者のみの癒やし、もしくは屍を「葬る」ためだけの儀式とするか、それとも「弔い（訪ひ・出遇い）」の意味を持って、故人を「身をもって無言で生死無常の理を説いて浄土に往生した諸仏」といitたく仏事とするか、改めて私たちは「お弔い（葬儀）」の意味について問い直したいものです。

*諸行無常、生死無常

お釈迦さま（釈尊）の覚られた真理。この世のあらゆるものは常に移り変わり、ひと時として同じ状態にならないということ。だからこそ、生あるものもまた、必ずいつか死を迎えるのです。

もくじ

1.	りんじゅう 臨終	5 ページ
2.	まくらづと 枕勤め	6 ページ
3.	つや 通夜	7 ページ
4.	そうしき 葬式	8 ページ
5.	かんこつ 還骨	9 ページ
6.	ちゅういん 中陰	10 ページ
	中陰が終わったら	11 ページ
7.	ねんきほうよう 年忌法要	12 ページ
	お葬式に思う	14 ページ

りんじゅう 臨終

本来は「亡くなる事」ではなく、「終わりに臨む時の事」。

POINT まずはお寺に連絡を

お寺に連絡*し、「^{まくらづと}枕勤め」の依頼をします。
葬儀社と住職とで葬儀の日程を決定し、
近親者に連絡をします。



*お寺の連絡先は、この冊子の背表紙でご確認ください。

Q&A

ご遺体はどこに安置したらいい？ 向きは関係ある？

「枕勤め」までにお内仏（^{ないぶつ}仏壇）のある部屋に安置します。お内仏が無い場合は、お寺に相談して、落ち着いた部屋にご本尊をお掛けし、その前にご遺体を安置しましょう。

ご遺体の向きは、お釈迦さまが入滅した姿にならって「^{ずほくめんさい}頭北面西（北枕）」が基本ですが、これは必ずというわけではなく、お部屋の状況に応じて決められたらよいでしょう。



まくらづと 枕勤め（枕経）

枕飾りを整えたあとのお勤め。

POINT 枕飾り

まくらづと
枕勤めまでに、お内仏（仏壇）の扉を開いてきれいに掃除をし、とうみょう
灯明をともし、かひん しきみ
花瓶に櫛などの青木を挿し、お線香をたきます。ご遺体を、お内仏のある部屋へ安置します。
なお枕飾りには長い線香を立てたり、お茶碗にご飯を大盛りにして箸を立てることはしません。
また、臨終から葬儀までは常にお香を燃じます（不断香といひます）。



Q & A

のうかん
納棺の衣服はどういうものを着せたらいいの？

納棺の時には死出の旅装束（守り刀、頭の三角巾や六文銭など）は必要ありません。せいれん
清廉な衣服を着けます。故人にとって思い出のある衣服などを着せるのもよいでしょう。ねんじゆ
念珠を忘れず、故人がもんとかたぎぬ
門徒肩衣をお持ちであればかけましょう。

ききょうしき
帰敬式（おかみそり）について

生前にほうみょう
法名をいただいでいない場合、葬儀までの間に住職から帰敬式を受けます。法名はすべて、「釈〇〇」とあらわされ、お釈迦様の「釈」の字をいただき、ぶつでし
仏弟子となることを意味します。また院号法名を希望される場合は、お寺に相談しましょう。

つや 通夜

うえん
有縁の人々が集まって故人を夜通し偲ぶ場。

POINT 通夜での服装

もふく
喪服である必要はありません。
念珠を忘れず、門徒肩衣をお持ちの方はかけましょう。



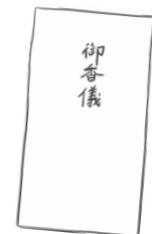
Q & A

清め塩はいつ使うもの？

「清め塩」は用いません。葬場から帰って家に入る前に塩を踏んだりすることは、身を清めて家の中にけが
穢れが入らないようにということです。大切な方の死を穢れとすませてしまうことのない様にしたいものです。

「御香典」にはどういう意味があるの？

ごこうぎ ごこうし おこうりょう
「御香儀」「御香資」「御香料」とも書きます。昔は儀式の時、焼香には各自持参した「お香」を用いました。「お香」の代わりに「お金」を納める様になり「お香の儀（御香儀）」などと表書するようになりました。（水引を用いる場合は、黒白が一般的でしょう。）



そうしき 葬式

故人の還浄*を見送る式。

POINT 葬式に向き合うこと

今はただお別れを偲ぶ身であっても、
いずれ自らも迎えねばならない死の事実
を大切に考え、心静かに仏事として
お葬式に向き合いたいものです。



Q & A

友引の日に葬儀をしてはいけないの？

特にこだわる必要はありません。友引や仏滅をはじめとする六曜ろくようのことは数百年前に廃止された、中国が起源のものです。例えば、友引は、もともと共引と書き、仏滅は物滅と書きました。

いずれにしても、死は私たちに悲しみと共に不安や恐れをもたらしますが、何か自分の外のものに迷わされるようで、実は自分の心に迷うことを「迷信」というのでしょうか。苦しみや悲しみ、死の不安を遠ざけたいという、そのころを大切に仏事をとおして問い返してみたいものです。

*還浄

さいきおうじょう
西帰・往生とともに、お浄土かえに還ることです。

かんこつ 還骨

遺骨いこつを拾い斎場さいじょうから戻ること。

POINT 還骨勤行

「お骨になって自宅に帰る」という意味です。現在は初七日法要しょなのかと一緒に勤めることが多いようです。また、還骨勤行とは言わずに単に初七日法要ということもあるようですが、本来は別のものです。いずれにせよ大切な仏事のひとつであることには変わりありません。

Q & A

はっこつ おふみ 白骨の御文って？

「御文」とは真宗中興の祖、蓮如上人れんにょしょうにんが各地の門徒衆に送られた手紙で、その中に真宗の教えの肝要を、当時の人々にわかりやすい平易な言葉で書かれています。それがまとめられ、勤行時に拝読されるようになりました。

「白骨の御文」はその御文の中でも特に還骨勤行の時に読まれるものです。その中で蓮如上人は、「朝には紅顔ありて、夕には白骨となれる身なり」と、私たちのいのちの儂さあしたを繰り返して教えてくださっています。

御文をが読まれる時は少し頭を下げて、心静かに拝聴はいちようしてください。

ちゅういん 中陰

亡くなってから四十九日までの期間。

POINT

ちゅういんごんぎょう 中陰勤行

しよなのか まんちゅういん
初七日から満中陰まで、七日ごとにお勤めします。身近な方の死の悲しみをとおして、自分自身が人間としての生き方・在り方を仏さまの教えから聞き開く大切な期間です。四十九日目を満中陰と言います。また古来、中陰中を喪中としてきました。

中陰勤行を務める日 亡くなられて四十九日の間は、七日ごとにお勤めをします。



※地域によっては異なる場合もありますので、お寺にお尋ねください。

ちゅういんだん

中陰壇のお飾りについて

中陰壇とは、ほうみやう かんにつごんぎょう
中陰壇とは、法名をかけ、遺骨を安置するためのものです。還骨勤行までにお内仏の前、あるいは横に作ります。お仏供（お仏飯）をお備えし、仏花はしきみ さ とうみやう
櫛などの青木を挿します。還骨から満中陰までは常に灯明をつけておきます（不断灯明といいます）。お内仏には中陰用の打敷をかけますが、無ければ通常のを裏返して（白い面を表にして）代用します。

Q & A

中陰が三ヶ月にまたがってもいいの？

中陰（四十九日）が三ヶ月にまたがっても構いません。「四十九が三月」で、「始終、苦が身につく」という単なるゴロ合わせです。その言葉は、なんの根拠もない迷いごとです。月の後半に亡くなれば、中陰はみな三ヶ月にわたるものです。このようなことに惑わされることなく、大切な中陰を過ごしましょう。



中陰が終わったら

満中陰のお勤めが済んだら、中陰壇を片づけます。お内仏も白い打敷を外し、平常のおかざりに戻します。平常の生活に戻っても、中陰の間に身についた勤行の習慣をぜひ続けて、お内仏にお参りしましょう。



がっき

月忌参り

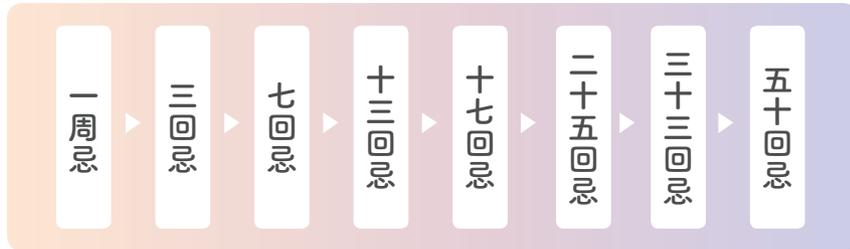
命を終えられた日を「命日」といいます。毎月/monthの月忌参りの時は、住職と一緒に内仏にお参りしましょう。

ねんきほうよう 年忌法要

節目の年忌で勤める仏法行事（法事）。

POINT 年忌法要の心得について

亡き人はその身をもって、生きる者は必ず命を終えていくことを教えてください。年忌法要を勤めることで、亡き人に想いを寄せ、その限りある時間を私はどう生きているか？ということを確認し、自分を見つめ直す大切な機会としたいものです。



※地域によっては異なる場合がありますので、お寺にお尋ねください。

Q & A

年忌法要の服装は？

服装は平服（普段の外出着）で結構です。また念珠を忘れず、門徒肩衣をお持ちの方はかけましょう。年忌法要は忌み事ではありませんので、喪服の必要はありません。



しょうぎょう 真宗大谷派のお聖教

我々の正依の經典は、「無量寿經」「観無量寿經」「阿弥陀經」（浄土三部經）です。「お経」には、「いのち」の尊さや重さを見失い、目先の損得に振りまわされて、都合の悪いことは無意識に排し、思い通りにならなければ自分自身でさえ見棄ててしまう、そんな私たちの姿が説かれています。

我々門徒にとっていちばん身近なのは『正信偈』でしょう。この偈文は宗祖親鸞聖人がお作りになったもので、古来より読誦されてきた真宗門徒のいのちともいべきお聖教です。

ぜひ私たちもご先祖たちに続き、この「いのちの偈」を声高らかに勤めいたしましょう。



大切な人との別れの時間は、思いがけずにハッとさせられることがあります。

先日、大叔母が亡くなり、お寺でお葬式をすることになりました。

大叔母の長男である喪主は、昔から論理的に物事を考え、数字とにらめっこをする性格の人で、お寺に遊びに来て「目に見えへんもんには手を合わせられへん」と言う人でした。

しかし、いざ自分の母親が亡くなって、^{まくらづと}枕 勤めの後に二人で話をしていると、想いが溢れるように話してくれました。

「本来、自然のなかにあるものを人間が数字という名前をつけて取り出した。今は当たり前のように量ったり図ったりして使ってる。それが全てやと思っているけれど、数字じゃ人は救われへんねんなあ」と。

その言葉を聞いた時、仏さまに^{り ろ せいぜん}理路整然と背中を向け続けてきた人が、一瞬振り返ったように感じて驚きました。

浅田正作さんの『見える』という詩には、こうあります。

“ 昔はいつも 誰かと自分をくらべて
いじけたり のぼせたり
今も やっぱりそれをやるが
やったあとにそれが見える ”

振り返れば、私自身もまた他人と自分、アレとコレを量ったり図ったりして、いじけたり のぼせたりする生活をしているように思います。しかし、それだけでは済ませたくないという願いが「やったあとにそれが見える」の一言にこめられているのではないのでしょうか。

仏事に向き合う時間は、これまでの生き方を見つめ直し、これから歩いていく方向を確認する時間として丁寧に向き合いたいです。

[寺族 / 男性 / 三十代]

命がいつ、どこで終えていくか、誰にもわかりません。

現在、ご法話の聴聞^{ちょうもん}、お寺への行事参加と足を運び、「南無阿弥陀仏」の教えを、心のよりどころとして学ばせて頂いております。

日頃の聴聞を通して、家族（子供・孫）との「和」、又私のまわりにおられる方々のご縁の「和」を心掛けています。お葬式・ご法事の時には、楽しく思い出話等語り合ってもらえる姿を残していきたいと願う日々でございます。

[門徒 / 女性 / 七十代]

私の葬儀について、遺された方々への私の思いを少しだけ記しておきます。葬儀のことについては、遺族とお寺さんとの相談して決めていただければ結構です。

振り返って見ますと、本当に周囲の方々に支えられての今日までの私だと思います。優しい夫、愛する子供、孫、姉妹、そして楽しい友人達。先に亡くなられた有縁の方々、そして両親達にも感謝の念で一杯です。

私という人間をこの世に送り出し、育ててくださった事への限りない思いを持ちつつ、みんなの健康と幸せを念じています。

[門徒 / 女性 / 六十代]

 私の名前・生年月日

私の名前

生年月日

年	月	日
---	---	---

 私のお寺・法名

真宗大谷派	寺
-------	---

法名 釋	[院号希望] する・しない
------	------------------

 知らせたい方（連絡先）

名前	TEL
----	-----

名前	TEL
----	-----

名前	TEL
----	-----

名前	TEL
----	-----

名前	TEL
----	-----

 私のお葬式についてのお願い

.....

.....

.....

.....

.....

 私の大切なあなたへ

.....

.....

.....

.....

.....